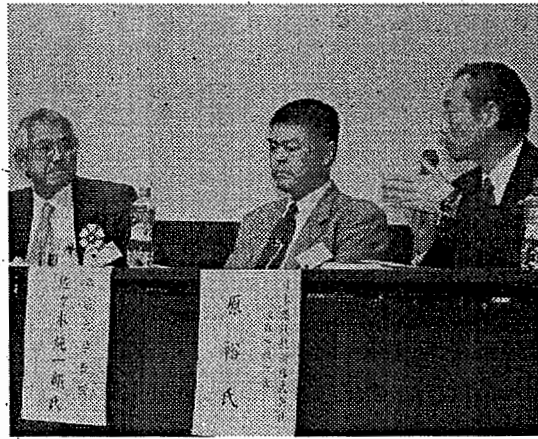




建設業、異業種進出にエール



建設会社が大学や行政と協力した異業種進出などの事例を紹介する「建設トップラン ナーフォーラム(TRF、和田章代表幹事＝東京工業大学教授)」が佐賀県内で開かれた(写真)。公共投資

が減少する中、産学官連携で新事業を探るのが狙い。県内外から経営者や行政関係者約200人が集まった。事例報告ではハート栽培に進出した舟山組(北海道北見市)の舟山秀太郎社長が「作るだけでなく販促力が重要」と訴えた。パネル

佐賀でフォーラム

産学官連携事例を紹介

討論会ではガラス廃材を使った水質浄化材を産官共同で作った日本建設技術(佐賀県唐津市)の原裕社長が「企業の足りない技術を大学に補ってもらい、官の支援で普及させるのがカギ」と述べた。

TRFは新事業や地域振興に挑む中小建設会社や、これを支援する大学教授などで構成。TRF顧問の米田雅子慶応義塾大学教授は「大学教授は知識をいかに地元に還元していくかが大事」と指摘、参加者からは「建設業の現況は厳しすぎる」と現状を嘆く声も上がった。

(佐賀)